

畑の天気 3月

☀️ 17日 ☔️ 14日

最高気温 29℃

平均気温 24℃

うたきの杜たより

第3号2026.04.08

つかの間のひととき

真紅のデイゴが青空に映え、月桃の花がほのかに香る若夏の頃となりました。

時には気温が28℃まで上がり、真夏がもうすぐそこまで来ているを感じます。

今月は、刈取りのない冬場の季節に、私たちが行った畑の仕事についてご紹介します。

ヘナは長雨や北風に弱く、葉を落として枯れたような姿になります。インディゴは寒さの影響で色素成分が弱まり、乾燥機にかけた後の葉の選別では、まち針ほどの細かい葉がたくさん落ちます。それを一つひとつ取り除く作業はとても手間がかかり、普段の2~3倍以上の時間がかかります。それで、今後は、冬場のインディゴの収穫は初夏まで待つことにしました。

3月2日にはインディゴの種を蒔きました。「うたきの杜たより2号」掲載の本葉が出た苗は鉢に移し、大切に育てています。畑では土を耕し、堆肥を入れ、5月の苗の定植に向けて準備を進めています。

また今年は畑の隣にある御嶽との境界を整備し、サンダンカを200本、五穀の黍、粟、高黍も植えました。御嶽から吹き抜ける風通しもよくなり、畑全体がすっきりと清々しい空気に包まれています。御嶽の神々がより近く感じられるようになりました。夏の豊年祭には地域の神様、弥勒神様にも奉納できる喜びで、毎日御嶽に向かって手を合わせています。

先週からは渡り鳥のコッカーラ(アカショービン)の声も聞こえ始めました。澄んだ囀りが畑に響くなか、これから始まる忙しい夏の猛暑を目の前にして、しばしのどかな時間を味わっています。

うたきの杜 玉城享子



インディゴ

収穫はもうちょっと？



うたきで撮影



「大きくなあれ～」
愛着わいて毎日
話しかけてます！



サンダンカ



高黍



粟



黍